

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	上智大学
設置者名	学校法人 上智学院

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
神学部	神学科	夜・通信	14			14	13	
文学部	哲学科	夜・通信	14			14	13	
	史学科	夜・通信	14			14	13	
	国文学科	夜・通信	14			14	13	
	英文学科	夜・通信	14			14	13	
	ドイツ文学科	夜・通信	14			14	13	
	フランス文学科	夜・通信	14			14	13	
	新聞学科	夜・通信	14			14	13	
総合人間科学部	教育学科	夜・通信	14			14	13	
	心理学科	夜・通信	14			14	13	
	社会学科	夜・通信	14			14	13	
	社会福祉学科	夜・通信	14			14	13	
	看護学科	夜・通信	14			14	13	
法学部	法律学科	夜・通信	14			14	13	
	国際関係法学科	夜・通信	14			14	13	

	地球環境法学科	夜・通信	14			14	13	
経済学部	経済学科	夜・通信	14			14	13	
	経営学科	夜・通信	14			14	13	
外国語学部	英語学科	夜・通信	14			14	13	
	ドイツ語学科	夜・通信	14			14	13	
	フランス語学科	夜・通信	14			14	13	
	イスパニア語学科	夜・通信	14			14	13	
	ロシア語学科	夜・通信	14			14	13	
	ポルトガル語学科	夜・通信	14			14	13	
総合グローバル学部	総合グローバル学科	夜・通信	14			14	13	
国際教養学部	国際教養学科	夜・通信			16	16	13	
理工学部	物質生命理工学科	夜・通信	14			14	13	
	機能創造理工学科	夜・通信	14			14	13	
	情報理工学科	夜・通信	14			14	13	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

URL: <https://www.sophia.ac.jp/jpn/studentlife/risyu/jitsumucourselist.html>

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名

(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	上智大学
設置者名	学校法人 上智学院

1. 理事（役員）名簿の公表方法

WEB 上で公開 https://www.sophia-sc.jp/about/officer.html

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	個人事務所会長	2021. 5. 14～ 2025. 5. 13	ガバナンス、財政、リスクマネジメントに関わる事項
非常勤	他大学 客員教授	2022. 4. 1～ 2026. 3. 31	グローバル化、財政、コンプライアンスに関わる事項
非常勤	他の学校法人理事・評議員	2020. 4. 1～ 2024. 3. 31	私立学校運営、ダイバーシティに関わる事項
(備考)			

様式第 2 号の 3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	上智大学
設置者名	学校法人 上智学院

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>当該年度に開講されている各授業科目について、授業形態(講義、演習、実験、実習の別)、講義概要、到達目標、授業計画、授業時間外(予習・復習等)の学修、評価基準・割合、教科書・参考書等を記載したシラバスを全学統一の書式で作成し、各学部長等が確認の上、本学学生に対しては、教学支援システム「Loyola」で、また広く一般にも本学公式ホームページ上で公開している。成績評価については、すべての授業科目に同一のものとして設けており、その基準は履修要覧で示している。</p> <p>各授業担当教員は、開講前年度の1月から2月に教学支援システム「Loyola」によりシラバスを作成することとなっており、重要項目(授業の目的や評価基準等)は必須項目とし、未入力の場合、確定できないよう系統的に制御することにより入力漏れを防止するとともに、シラバス作成依頼時には上智大学ファカルティ・ディベロップメント委員会が作成する「シラバス作成の手引き」を参考資料として配付し、その質的向上を図っている。</p> <p>また、個々の教員が作成したシラバスについては、前年度末に各学部長等の開講元による公表内容の確認を行い、学長への結果報告を義務づけている。</p>	
授業計画書の公表方法	https://www.sophia.ac.jp/jpn/studentlife/risyu/syllabus.html
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>学修成果については、担当教員がシラバスで明示した評価基準・割合に照らして計算された素点に基づき、合格は「A」から「D」の4段階評価、不合格は「F」とし、段階評価が馴染まない科目については合格を「P」、不合格を「X」という評語で表すことを学則の第55条で定め、全学統一の評価基準としている。</p> <p>さらに、成績評価の厳格化及び平準化を目的に、30名以上の受講者がいる科目については演習科目や指導科目を除き、A評価を付与する割合は20%以内を目安とし、最大で30%までとすることを「成績評価のガイドライン」として2015年度に定めた。ガイドラインの実効性を担保するため、ガイドラインに則った成績評価が行われているかの事後チェックを行い、A評価が30%を上回る科目があった場合には、学部長・学科長が担当教員に対し、次年度での是正勧告を行う体制を構築している。</p> <p>また、学生の側からも成績評価について疑問がある場合には「成績評価確認願」により担当教員に対して評価の確認を願い出ることができ、これらを組み合わせることで、厳格かつ適正な成績評価を行っている。</p>	

<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p> <p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) 学修成果については、前項のとおり担当教員がシラバスで明示した評価基準・割合に照らして計算された素点に基づき、合格は「A」から「D」の4段階評価、不合格は「F」とし、段階評価が馴染まない科目については合格を「P」、不合格を「X」という評語で表すことを学則の第55条で定め、全学統一の評価基準としている。各評価のQuality Point Index と呼ばれる値に各科目の単位数をかけたものがQuality Point となり、Quality Point の総合計を履修登録科目の総単位数 (W, N, P, X として表示された科目を除く) で割ったものがGPA となる。W (履修中止)、N (認定科目)、P (合格)、X (不合格) は計算式に含まれない。</p> <p>[GPA の計算式] $\frac{4.0 \times A \text{ の修得単位数} + 3.0 \times B \text{ の修得単位数} + 2.0 \times C \text{ の修得単位数} + 1.0 \times D \text{ の修得単位数}}{\text{履修登録科目の総単位数 (W, N, P, X として表示された科目を除く)}}$</p> <p>また、本学では授業科目ごとの成績評価分布状況を、教学支援システム「Loyola」上で学期ごとに公開しているとともに、前項に記載のとおり、成績評価のガイドラインに基づき組織的な確認を行っている。</p>	
<p>客観的な指標の 算出方法の公表方法</p>	<p>「上智大学履修要覧〔ガイド・資料編〕」p40 https://www.sophia.ac.jp/jpn/studentlife/risyu/g_youran/faei3d000000ytkf-att/faei3d000000ytnn.pdf</p>
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要) 学則第57条に則り、各学部・学科が定めるカリキュラム・ポリシーを体系化した各学科のカリキュラムに沿った履修と単位の修得を行い、卒業に必要な要件(修業年限を満たし、卒業に必要な単位を修得する)を満たすことにより、各学部・学科のディプロマ・ポリシーに掲げている、「卒業までに身につけるべき能力・知識」を習得したものと学部における判定会議を経て、最終的に学長が卒業の認定を行っている。卒業の要件、卒業判定に係る手順については、全学的に統一した日程と手順を定めて実施しており、各学部・研究科における卒業判定の実施から、卒業対象者の確定、判定結果の学長への報告、学長決裁(卒業者の認定)、卒業(修了)者の発表にいたるまでの手順を予め学内で公表し、学内関係者においては、これに係る各手順について共通認識のもと、卒業の認定に係る一連の作業を実施している。</p>	
<p>卒業の認定に関する 方針の公表方法</p>	<p>上智大学の教育研究活動等の情報公表 2. 学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針、入学者受け入れの方針) https://www.sophia.ac.jp/jpn/aboutsophia/sophia_disclosure/index.html#02</p>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	上智大学
設置者名	学校法人 上智学院

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.sophia-sc.jp/info/gakuin.html
収支計算書又は損益計算書	https://www.sophia-sc.jp/info/gakuin.html
財産目録	https://www.sophia-sc.jp/info/gakuin.html
事業報告書	https://www.sophia-sc.jp/info/gakuin.html
監事による監査報告(書)	https://www.sophia-sc.jp/info/gakuin.html

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:2022年度事業計画 対象年度:2022年度)
公表方法: https://www.sophia-sc.jp/info/gakuin.html
中長期計画(名称:グランド・レイアウト2.0及び2.1 対象年度:2014年度~2023年度)
公表方法: https://www.sophia-sc.jp/info/grand_layout/index.html

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: https://www.sophia.ac.jp/jpn/aboutsophia/approach/self/jikotenken.html
--

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: https://www.sophia.ac.jp/jpn/aboutsophia/approach/self/daigaku_hyoka.html
--

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 神学部
教育研究上の目的 (公表方法： https://www.sophia.ac.jp/jpn/program/UG/UG_theol.html) (概要) 神学を中核とし、キリスト教倫理並びにキリスト教文化を包括するカトリシズムをその歴史の変遷を踏まえて教育し、キリスト教的価値観の創造的発展に寄与すること
卒業の認定に関する方針 (公表方法： https://www.sophia.ac.jp/jpn/program/UG/UG_theol.html) (概要) 本学部では、学生が卒業時に身につけているべき能力や知識を次のように定めています。卒業要件を満たせば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。 1. カトリック神学とその価値観の基礎を修得し、それにもとづいて現代世界における諸問題に学問的にアプローチし、また実践的にコミットできる能力 2. 学生が選択した「系」の分野に関して十分に精通し、当該領域の諸問題について分析・考究する能力 3. 神学を研究するための調査・論考・発表に関するアカデミック・スキルズ 4. 学生が選択した「系」の分野に沿ったテーマで卒業論文を完成させる能力
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法： https://www.sophia.ac.jp/jpn/program/UG/UG_theol.html) (概要) 本学部では、ディプロマ・ポリシーに沿って、次のような科目群によりカリキュラムを編成しています。 1. カトリック神学の基礎的素養を養う科目群 2. 学生が選択する「系」(神学系、キリスト教倫理系、キリスト教文化系)に沿って、学生が各自の関心に従い、より専門的に勉学を深めるための選択必修科目群 3. 神学を研究するための調査・論考・発表に関するアカデミック・スキルズを養う必修科目群 4. 神学の勉学を総合する卒業論文執筆に向けた、問題解決と発表の能力を育てるための必修科目群 5. 教皇庁認可神学部共通の国際的学位(STB/STL/STD)を取得するための基準に則した神学専門科目、また教会の必要に応えるための宣教実務に関する科目
入学者の受入れに関する方針 (公表方法： https://www.sophia.ac.jp/jpn/program/UG/UG_theol.html) (概要) 本学部では、カトリック神学を主な教育研究の対象としており、以下のような学生を受け入れます。 1. キリスト教に関する基本的知識を持っていること。 2. 異文化や国際性に開かれた柔軟な思考能力があること。 3. 人間の尊厳と社会正義に関心を持ち、ボランティア活動などの実践にも積極的であること。

4. カトリック教会と人類社会への貢献を望むこと。

多様な背景をもった学生を積極的に受け入れるために複数の試験制度を設け、日本語の他に英語やそれ以外の語学能力と歴史の知識の試験を行い、面接試験を重視します。また聖職志願者をはじめ社会の多様な人々を受け入れるため、編入学枠を設けています。

学部等名 文学部

教育研究上の目的

(公表方法：https://www.sophia.ac.jp/jpn/program/UG/UG_fh.html)

(概要) 高度な専門教育と質の高い学術研究に基づいて、人文教養の本質である人間探究を行い、もって人類の精神的遺産を将来に継承し、世界と人間を真に理解する力を養うこと

卒業の認定に関する方針

(公表方法：https://www.sophia.ac.jp/jpn/program/UG/UG_fh.html)

(概要) 本学部は、哲学・思想・歴史・文学・文化・芸術・情報・身体などを、人文学の基盤にある人間の尊厳とのかかわりのなかで研究します。人文教養を涵養することで、社会のさまざまな分野で未来を創造できる自律的な人間を養成します。また、高度な専門教育と質の高い学術研究の成果を活かして、広く社会と世界に貢献できる人を育てます。学生が卒業時に身につけているべき能力や知識を次のように定めており、次の卒業要件を満たせば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. 人間の歴史・文化が集約された資料・情報を、自らの力で批判的に分析・解釈・評価する能力
2. 人文教養の基盤である人間性・人格性について深く考察し、十分な裏付けに基づいた自らの意見を他者に分かりやすく表現する能力
3. 日本語、外国語を問わず、言語とそれが使われる文化に対する深い理解に基づいた高度なコミュニケーション力
4. 人文教養を、社会生活、職業生活、市民生活、ひいては人生そのもの実践的かつ創造的に役立てる能力

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：https://www.sophia.ac.jp/jpn/program/UG/UG_fh.html)

(概要) 本学部では、ディプロマ・ポリシーに沿って、専門分野別の学科編成をとっています。各専門分野を学ぶ学生ひとりひとりの関心を重視し、人格的關係に基づいた指導を行います。質の高い、一貫したカリキュラムを通して、学生と教員が一体となって、「人間を考える学問」としての人文学研究に取り組むことができるよう、次の趣旨を盛り込んだ科目によってカリキュラムを編成しています。

1. 学部の初年次研修で、基礎的な人文学研究の特徴・勉学態度・表現方法などを指導する。
2. 初年次から、各分野の専門教育をカリキュラムに含め、卒業時まで充実した一貫教育を行う。
3. 少人数授業やゼミナールによって、学生の自主性・分析力・理解力・表現力・対話力を集中的に養う。

<p>4. 全学共通の外国語科目に加えて、各学科の専門的な語学教育を徹底して行う。</p> <p>5. 全学科で卒業論文を必修科目として、長期間にわたる個人指導を行い、総合的な学習到達度を判定する。</p> <p>6. 学科科目とは別に学科横断型のプログラムを設け、各学科の専門領域を超えた人文学の知見を広める機会を設ける。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.sophia.ac.jp/jpn/program/UG/UG_fh.html)</p>
<p>(概要) 本学部は、人間性の探究および人文教養の各領域について深く幅広い関心と動機づけを持つ学生が、学科を選択して入学し、自発的かつ積極的な態度で学業に研鑽することを期待します。そこで、次のような学生を受け入れます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人文教養を主体的に探究しようとする意欲と、学業への誠実な態度を持っている。 2. 志望する個別の専門分野について具体的な関心を持っている。 3. ものごとを批判的に考え、自らの意見を明確に表現するための基礎的なスキルを身につけている。 4. 大学での学修に必要とされる基礎的な教養、知識、語学能力を備えている。

<p>学部等名 総合人間科学部</p>
<p>教育研究上の目的 (公表方法：https://www.sophia.ac.jp/jpn/program/UG/UG_fhs.html)</p>
<p>(概要) ヒューマン・サイエンス、ポリシー・マネジメント、ヒューマン・ケアの三つの知を柱とする科学的思考を養うとともに理論・実践・臨床に関する学際的教育・研究を行うこと。</p>
<p>卒業の認定に関する方針 (公表方法：https://www.sophia.ac.jp/jpn/program/UG/UG_fhs.html)</p>
<p>(概要) 本学部では、学生が卒業時に身につけているべき能力や知識を次のように定めています。卒業要件を満たせば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人間の尊厳を重視する態度と人間や社会に関する幅広い教養を有し、国際的な観点から総合的かつ多角的に人間や社会が直面する諸問題を理解する能力 2. それらの問題を適切な科学的方法を用いて分析し、他の専門領域の人々とも積極的に協働しながら、解決に向けて取り組む能力 3. 変化し続ける社会の中で、常に問題意識を持ち、自己研鑽に励み、人格的成長を目指す力。
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.sophia.ac.jp/jpn/program/UG/UG_fhs.html)</p>

<p>(概要) 本学部では、ディプロマ・ポリシーに沿って、その専門性に応じて次の趣旨を盛り込んだ科目によってカリキュラムを編成しています。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 1・2年次では、基礎科目群や他学科の専門科目の履修を通して、人間の尊厳とは何か、それを実現するためにはどんな知識や能力が必要かを幅広く学ばせる。 2. 3年次になると演習や学内外の実習を中心として少人数教育が提供され、学生は思考力、判断力、表現力、コミュニケーション能力の基礎を身につけさせるとともに、問題解決に必要な方法論(理論や研究法など)を実践を通して学ばせる。 3. 4年次では、自らが問題を設定し、解決のためのデータを収集し、そのデータに基づいて分析し、そしてその成果を発表する場を提供する。
<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.sophia.ac.jp/jpn/program/UG/UG_fhs.html)</p>
<p>(概要) 人間の尊厳とは何かを理解しその実現に向けて、教育、医療、福祉、さらには日々の生活の中で実践できる人材の養成を目指している総合人間科学部では、以下のような学生を受け入れています。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 個人や社会、さらには諸外国で起きている人間の尊厳に関わるさまざまな事象に対して強い関心を持っている。 2. それらの事象を論理的かつ客観的に分析し表現するために必要な基礎的な知識と能力を持っている。 3. コミュニケーション能力を高め、他の専門領域の人々とも積極的に協働することができる。 4. 困難な状況にある個人や地域社会を支援し、国際社会の発展に貢献したいという意欲に満ちている。

<p>学部等名 法学部</p>
<p>教育研究上の目的 (公表方法：https://www.sophia.ac.jp/jpn/program/UG/UG_law.html)</p>
<p>(概要) 法律学及びその関連科目を広く学ぶことを通じて、社会に生起するさまざまな問題について法的に考える力を養うこと</p>
<p>卒業の認定に関する方針 (公表方法：https://www.sophia.ac.jp/jpn/program/UG/UG_law.html)</p>
<p>(概要) 本学部では、法的な基本知識や思考枠組とともに、広い視野と柔軟な思考をもって、主体的に問題の分析や解決にあたるような能力を修得した人材の養成を目的として、学生が卒業時に身につけているべき能力や知識を各学科で定めています。卒業要件を満たせば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.sophia.ac.jp/jpn/program/UG/UG_law.html)</p>

<p>(概要) 本学部では、ディプロマ・ポリシーに沿って、次の趣旨を盛り込んだ科目によってカリキュラムを編成しています。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 法的な基本知識や思考枠組を修得し、広い視野と柔軟な思考をもって問題の分析や解決にあたることができるよう、法律基本科目を基礎に置きながら、その発展的・先端的な法律科目を配置するとともに、政治学・経済学・国際関係論といった隣接科目を揃え、学科横断的に学ぶ。 2. 問題意識と学問的な関心をもって、より主体的に、かつ、掘り下げた議論ができるよう、少人数制のゼミナール形式の演習を設ける。
<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.sophia.ac.jp/jpn/program/UG/UG_law.html)</p>
<p>(概要) 本学部では、大学入学前までに身に付けておくべき学力を有することを前提として、国内外を問わず、現代社会に生起する問題や紛争、地球規模の環境問題などに関心を抱き、それを法学・政治学的な観点に照らしつつ、客観的かつ柔軟に考察し、みずからの意見を主張するとともに、相手の意見に耳を傾けられるような学生を求めています。</p>

<p>学部等名 経済学部</p>
<p>教育研究上の目的 (公表方法：https://www.sophia.ac.jp/jpn/program/UG/UG_fec.html)</p>
<p>(概要) 経済学と経営学及びその関連科目の幅広い学習を通じて、現代社会における経済的活動と社会的問題について論理的に考える力を養うこと</p>
<p>卒業の認定に関する方針 (公表方法：https://www.sophia.ac.jp/jpn/program/UG/UG_fec.html)</p>
<p>(概要) キリスト教ヒューマンイズムの精神を基盤とし、「広い視野と先見性をもち、国際的なリーダーとなる人材を育成する」という学部教育理念のもと、21世紀の高度な知識基盤型の社会においてリーダーとして活躍し、国際社会に貢献できる人材の養成を目的として、本学部は学生が卒業時に身につけているべき能力や知識を次のように定めています。卒業要件を満たせば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 経済学と経営学の基礎および専門知識 2. 情報処理能力、コミュニケーション・スキル、問題解決能力 3. 早期卒業においては、高い問題意識と自己管理能力をもち、早期に社会において活躍する力
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.sophia.ac.jp/jpn/program/UG/UG_fec.html)</p>
<p>(概要) 本学部では、ディプロマ・ポリシーに沿って、「叡智が世界をつなぐ」という大学ミッションと学部教育理念のもと、クラスを単位とした導入教育、専門科目の基礎と関連づけた少人数教育、専門性を養う講義、および教員と学生が相互に顔の見える関係での演習を核とする基幹教育や外部機関と連携した多彩な実践的教育によって、理論と現実をバランスよく学ぶ目的で、次の趣旨を盛り込んだ科目からなるカリキュラムを編成しています。</p>

<ol style="list-style-type: none"> 1. 必修科目・概論による導入教育を通じて、経済学と経営学の基礎的知識を修得させる。 2. 基礎セミナーやアクティブ・ラーニング・セミナーなどの少人数教育を通じて、経済学と経営学の理論的な知識を深く掘り下げて修得させる。 3. 専門科目と演習の基幹教育を通じて、学生の知的な関心に沿って専門性の到達度を向上させ、理論と現実のバランスのとれた知識と問題解決能力を高める。 4. 外部との連携講座を通じて、現実に応じた多様な実践的知識を修得させる。 5. 英語特修プログラムを通じて、国際的な視野で議論できるようする。
<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.sophia.ac.jp/jpn/program/UG/UG_fec.html)</p>
<p>(概要) 本学部は、キリスト教ヒューマニズムの精神を基盤とし、現代社会の諸問題に対して、経済学と経営学を基礎とした複眼的な視点から判断して適切に対応できる能力を養い、グローバルな社会に貢献できる人材の育成を目指しています。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. グローバル化する社会において、多様な諸問題に関心を持ち、その解決のために高い意欲をもって主体的に行動する学生を求めています。 2. 経済学と経営学の専門分野の特性を考慮し、外国語の能力とともに、経済学科では論理的思考力(数学)、経営学科では歴史などの社会科系の素養に秀でた学生を求めています。 3. 経済学と経営学の知識をもとにし、営利・非営利組織を問わず、多方面で社会に貢献しようとする意志と、潜在的な可能性を持つ意欲ある学生を求めています。

<p>学部等名 外国語学部</p>
<p>教育研究上の目的 (公表方法：https://www.sophia.ac.jp/jpn/program/UG/UG_ffs.html)</p>
<p>(概要) 外国語の高度な運用能力を養い、それをもとに、9つの研究コースにおいて、各専攻語が使用されている地域に関する地域研究、また言語研究、国際政治論研究、市民社会・国際協力論研究を行うこと</p>
<p>卒業の認定に関する方針 (公表方法：https://www.sophia.ac.jp/jpn/program/UG/UG_ffs.html)</p>
<p>(概要) 本学部は、学生が卒業時に身につけているべき能力や知識を次のように定めています。卒業要件を満たせば、これらを身につけたものと認め、学位を授与する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人間に固有に備わる言語について多面的に考察する力 2. 日本語を含む諸言語の普遍性と多様性を理解し、さまざま言語事象について探求していく力 3. 社会、文化、教育など人間の生活における言語の幅広い役割を認識し、獲得した知識を積極的に活用できる力 4. 特定の国・社会・地域を、歴史・政治・経済・社会・文化など分野横断的に研究する力 5. 特定の国・社会・地域の事象や問題に関心を持ち、専門的知識を駆使して深く分析する力

6. 日本を含む複数の国・社会・地域を比較することで、それぞれについて相対的に考察する力
7. 国際政治および市民社会・国際協力に関心を持ち、専門的知識を駆使して深く分析する力
8. 日本語、英語を含む複数の言語で書かれた資料を読み、議論する力

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：https://www.sophia.ac.jp/jpn/program/UG/UG_ffs.html)

(概要) 本学部では、ディプロマ・ポリシーに沿って、いずれも学生の能動的・積極的な参加を前提とする第一主専攻科目および研究コース科目によってカリキュラムを編成しています。

1. 【第一主専攻・専攻語科目】1・2年次においては専攻外国語の基本的な運用能力を体系的・実践的に修得させる。それを土台に、3・4年次においては、より実践的、かつ専門研究に取り組む上で十分な運用能力を身につけさせる。オールラウンドな語学の基礎力が身につくように、口頭・筆記による練習を中心に授業を進める。
2. 【第一主専攻・語圏基礎科目】主に1・2年次において、専攻語が使用される地域における歴史・政治・経済・社会・文化・言語に関わる基礎的な知識を修得させる。講義形式を中心に、必要に応じ、グループワークやプレゼンテーションを織り交ぜながら授業を進める。
3. 【研究コース・導入科目】2年次秋学期に学生は各自の興味関心や志向にしたがい研究コースを選択するが、その準備段階として1・2年次生において、研究に必要な基礎的知識と方法論を修得させる。講義形式を中心に、必要に応じ、グループワークやプレゼンテーションを織り交ぜながら授業を進める。
4. 【研究コース・コア科目】主に2年次以降、研究コースでの学びの中核として、それぞれの専門分野について知識と問題意識を深め、多角的に学ぶ。講義系科目では、必要に応じ、グループワークやプレゼンテーションを織り交ぜながら授業を進める。語学系科目では、高度な言語運用能力を身につけさせるための練習も取り入れる。
5. 【研究コース・演習科目、卒業論文】3・4年次においては、それぞれの専門分野について自ら研究課題を設定し掘り下げることで、主体的な研究能力を養う。さらに、卒業論文・卒業研究を作成することにより、構想力・論理的思考力・表現力を身につけることができる。論文の書き方を修得させるとともに、プレゼンテーションとディスカッションを中心に授業を進める。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：https://www.sophia.ac.jp/jpn/program/UG/UG_ffs.html)

(概要) 日本語の運用能力を基盤に、外国語運用能力の獲得に真摯に取り組むことのできる学生を求めています。また、単に言語運用能力にとどまらず、自らの住む地域から世界全体に至るまで起こっていることに積極的に関心を持ち、それを自分の問題として考え、解決策を見出していこうと努力を重ねていけることを期待します。

学部等名 総合グローバル学部

教育研究上の目的

(公表方法：https://www.sophia.ac.jp/jpn/program/UG/UG_fgs.html)

(概要) 国際関係論と地域研究の二つに大別された科目群の双方を体系的に履修することで、1) グローバリティの理解、2) ローカリティの理解、3) 複言語（英語、地域言語）の運用能力、4) 倫理観に裏付けられた交渉能力を習得させる。

卒業の認定に関する方針

(公表方法：https://www.sophia.ac.jp/jpn/program/UG/UG_fgs.html)

(概要) 本学部は、グローバル化の進行する現代にあって、人間の尊厳を守る公正な社会の実現に向け、国際的公共知識人たることを目指す学生が卒業時に身につけているべき能力や知識を次のように定めています。卒業要件を満たせば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. 安全保障、紛争、貧困、開発、移民、難民、地球環境などに関心を持ち、それらがなぜグローバルに解決を要する問題であるか説明する能力
2. グローバル・スタディーズを支える国際関係論と地域研究の考え方や理論の全体像を理解し、双方の視点を組み合わせて考える能力
3. グローバル化の正負の側面について、具体的な事例に即し、基礎的な理論と実証的な方法を用いて分析を行い、問題解決の方法を構想する能力
4. 国際政治論と市民社会・国際協力論のうち1領域、アジア研究と中東・アフリカ研究（ないしその他の地域の研究）のうち1領域を専門として選択し、2領域を組み合わせた主題を設定し、調べる能力
5. 世界の諸地域に生活する多様な他者と対話し、共存する社会の形成に向けて、協力して問題解決に当たる能力

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：https://www.sophia.ac.jp/jpn/program/UG/UG_fgs.html)

(概要) 本学科では、ディプロマ・ポリシーに沿って、次の趣旨を盛り込んだ科目によってカリキュラムを編成しています。

1. グローバル・スタディーズと、これを支える国際関係論および地域研究の基礎について講義を通じて学び、基幹となる理論と方法を修得させると共に、研究の基礎的な技能と姿勢を身につけさせる。【100番台科目】
2. 国際政治や経済の動態を把握し、国際協力や市民社会のメカニズムについて講義を通じて学び、専門の選択に備える。【200番台科目】
3. アジア、中東、アフリカ等について、歴史、文化、政治、経済他の諸側面から講義を通じて学び、専門の選択に備える。【200番台科目】
4. 国際政治論、市民社会・国際協力論から1領域、アジア研究、中東・アフリカ研究等から1領域を専門とし、講義等を通じてグローバルな問題の解決策を構想し、実践する力を養う。【300、400番台講義科目】
5. グローバル化の諸問題について、個別の課題を主体的に設定し、その研究成果を論文等の明確な形にして示す。【200番台自主研究、400番台演習、400番台卒業論文・研究等】
6. 少人数の演習を通して、議論によって相互の理解を深め、各自の課題研究を支えあう姿勢を身につけさせる。【100番台基礎演習、400番台演習】
7. 英語で講義される科目の受講などを通じて、国際共通語である英語の力を高めると共に、英語以外の外国語修得を心がけて複言語能力を獲得させる。【200番台以降の講義科目】

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：https://www.sophia.ac.jp/jpn/program/UG/UG_fgs.html)

(概要) 知的な関心と意欲を主体的努力によって伸ばし、グローバルな共生社会の形成に貢献しようとする以下のような学生を受け入れます。

1. グローバル化する世界が呈する正負の諸側面に対する大きな関心を抱き、高等学校在学中の現代社会に関わる授業等を通して一定の知識を有する者。
2. 世界を構成するさまざまな地域や人々の多様性がもたらす人類の社会と文化の豊かさに対する大きな関心を抱き、高等学校在学中の地理、世界史に関わる授業等を通して一定の知識を有する者。
3. 物事に対して根拠に基づいた論理的な思考ができ、かつ主体的に取り組むことができるよう努力を重ねてきた者。
4. グローバル化する世界の動きを理解するのに必要な基本的な文献を読解することのできる英語能力を有している者。

学部等名 国際教養学部
教育研究上の目的 (公表方法 : https://www.sophia.ac.jp/jpn/program/UG/UG_fla.html)
(概要) 英語で行われる教養教育を通じ、比較文化・社会科学・国際経営経済の各専門分野の科目を隣接領域と有機的に関連させつつ学ぶことで、高度な語学力、多文化対応発信能力、及び柔軟な思考力を養うこと。また、学際的な研究を通じてグローバル社会の理解と問題解決に寄与すること。
卒業の認定に関する方針 (公表方法 : https://www.sophia.ac.jp/jpn/program/UG/UG_fla.html)
(概要) 本学部は、学生が卒業時に身につけているべき能力や知識を次のように定めています。卒業要件を満たせば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。 <ol style="list-style-type: none">1. 包括的かつ学際的な教養と、英語により思考しコミュニケーションを行なうことのできる高度な英語力2. 高度に専門的な視点と一般的な幅広い視点の両方をもって特定の問題にアプローチする知的能力3. 多文化的環境に自らとけこみ、多様かつ重要な社会文化的問題のより良き理解に貢献する共同的活動に従事する能力
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法 : https://www.sophia.ac.jp/jpn/program/UG/UG_fla.html)
(概要) 本学科では、ディプロマ・ポリシーに沿って、次の趣旨を盛り込んだ科目によってカリキュラムを編成しています。 <ol style="list-style-type: none">1. コア・プログラムでは、英語を用いて文献を解読し、批判的に思考し、さらに発表・議論ができる基礎的な能力を修得させる。2. 学部独自のディストリビューション科目群は、領域横断的な入門的教養科目群であり、「社会と文化」「文化的伝統」「政治と経済」という三つのカテゴリーに分けられています。学生は、その三分野から広く受講することで、世界の多様な社会の仕組みや文化的価値・歴史に触れ、視野を広げるとともに、専攻分野に進むための基盤を形づくる。3. 比較文化、国際経営・経済、社会科学という三つの専攻分野では、基礎的なも

<p>のから専門性の高い科目まで体系的にカリキュラムが構成され、学生個々の関心にしたがってそれぞれの分野の知識を深く追求できます。また、同時に隣接領域の科目も履修することで、はば広く柔軟な視点を身につけることができる。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.sophia.ac.jp/jpn/program/UG/UG_fla.html)</p>
<p>(概要) The Faculty of Liberal Arts of Sophia University welcomes students who are:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Motivated to become active and responsible members of the global community and to participate in the creation of social, economic, and humanistic values essential for its sustenance and betterment. 2. Intellectually curious and eager to improve their communication and analytical skills to constructively interact with others from diverse socio-cultural backgrounds. 3. Prepared to expand further their knowledge so that they become able to identify and approach with competence global issues. <p>本学部は以下のような学生を求めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 能動的にかつ責任を持って、グローバル化する社会の一員となる意欲を持ち、その維持と改善に欠かせない社会的・経済的・人文的な価値の創出にすすんで参画する。 2. 多様な社会文化的背景をもつ他者と建設的に交流するために欠かせない知的好奇心の旺盛さ、自らのコミュニケーション能力・分析力を改善する強い意欲を持つ。 3. グローバルな問題を見極めアプローチしてゆくことができるよう、自らの知識を増やしてゆく覚悟がある。

<p>学部等名 理工学部</p>
<p>教育研究上の目的 (公表方法：https://www.sophia.ac.jp/jpn/program/UG/UG_fst.html)</p>
<p>(概要) 基盤となる専門分野の知識を習得するとともに、多様化した現代社会が抱える諸問題の解決に資するため、文理融合教育によって異分野を客観的に見ることのできる幅広い教養、すなわち「複合知」を身につけること</p>
<p>卒業の認定に関する方針 (公表方法：https://www.sophia.ac.jp/jpn/program/UG/UG_fst.html)</p>
<p>(概要) 本学部は、キリスト教ヒューマニズム精神を理解した上で、多様化する現代社会の抱える科学・技術の諸問題を幅広いおよび国際的視野から解決する能力を備えるとともに、高い想像性ならびに創造性に根差した独創的な研究を推進し、科学・技術のさらなる発展へ貢献できる人材の養成を目的として、学生が卒業時に身につけているべき能力や知識を各学科で定めています。卒業要件を満たせば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。</p>

<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.sophia.ac.jp/jpn/program/UG/UG_fst.html)</p>
<p>(概要) 本学部では、ディプロマ・ポリシーに沿って、次のようにカリキュラムを編成しています。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学生が共通に履修すべき講義中心の理工学部共通科目Ⅰ群,Ⅱ群により,科学・技術の諸問題を幅広いおよび国際的視野から解決する基礎的な能力を修得させる。 2. その上で,演習や実験科目を多く取り入れた学科コア科目により専門的な能力を身につけさせ,さらに専門性の高い講義科目から編成されている専門科目により独創的な研究を推進できる能力を修得させる。
<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.sophia.ac.jp/jpn/program/UG/UG_fst.html)</p>
<p>(概要) 本学部は、国際的に多様化する現代社会が抱える科学・技術に興味や関心を持つ学生を求めています。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 科学・技術に関する専門科目を学ぶにあたり、数学、理科、英語についての知識・教養を身に付けている者。 2. 科学・技術に関する諸問題について、論理的な思考力、幅広い視野およびコミュニケーション能力を持つ者。 3. 科学・技術に関して、探究心が旺盛で自然現象の解明や新たな技術革新に意欲を持つ者。 <p>The Faculty of Science and Technology is seeking students who are interested in science and technology in today's internationally diversified society.</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Those who have acquired knowledge and basic abilities in mathematics, natural science, and English, which are required for learning specialized courses in science and engineering 2. Those who are logical thinkers, possess a broad perspective, and have strong communication skills to deal with various problems in science and technology 3. Those who have an inquiring mind and are eager to unravel the mysteries surrounding natural phenomena and/or create technological innovations in science and technology

②教育研究上の基本組織に関すること

<p>公表方法：https://www.sophia.ac.jp/jpn/program/index.html</p>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	6人	—					6人
神学部	—	10人	2人	1人	2人	0人	15人
文学部	—	44人	16人	0人	5人	0人	65人
総合人間科学部	—	32人	17人	0人	10人	15人	74人
法学部	—	28人	4人	0人	0人	0人	32人
経済学部	—	21人	7人	0人	3人	0人	31人
外国語学部	—	38人	15人	5人	6人	0人	64人
総合グローバル学部	—	21人	5人	0人	2人	0人	28人
国際教養学部	—	14人	18人	0人	1人	0人	33人
理工学部	—	64人	24人	0人	10人	0人	98人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0人		245人					245人
各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)		公表方法： https://redb.cc.sophia.ac.jp/?lang=japanese					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
神学部	40人	42人	105.0%	176人	200人	113.6%	8人	8人
文学部	510人	524人	102.7%	2040人	2258人	110.7%	若干名	13人
総合人間科学部	305人	312人	102.3%	1220人	1326人	108.7%	若干名	14人
法学部	330人	341人	103.3%	1320人	1401人	106.1%	若干名	2人
経済学部	330人	336人	101.8%	1320人	1392人	105.5%	若干名	7人
外国語学部	500人	508人	101.6%	2000人	2188人	109.4%	若干名	5人
総合グローバル学部	220人	226人	102.7%	880人	964人	109.5%	若干名	2人
国際教養学部	186人	197人	105.9%	744人	774人	104.0%	若干名	3人
理工学部	380人	389人	102.4%	1520人	1577人	103.8%	若干名	0人
合計	2801人	2875人	102.6%	11220人	12080人	107.7%	8人	54人

(備考)
定員、現員は2022年5月1日現在の人数である。
入学者は、2022年5月1日に在学する、2021年度秋入学者と2022年度春入学者の合計人数である。

b. 卒業生数、進学者数、就職者数

学部等名	卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
神学部	41人 (100%)	4人 (9.8%)	26人 (63.4%)	11人 (26.8%)
文学部	529人 (100%)	37人 (7.0%)	424人 (80.2%)	68人 (12.9%)
総合人間科学部	327人 (100%)	38人 (11.6%)	253人 (77.4%)	36人 (11.0%)
法学部	346人 (100%)	40人 (11.6%)	272人 (78.6%)	34人 (9.8%)
経済学部	342人 (100%)	13人 (3.8%)	292人 (85.4%)	37人 (10.8%)
外国語学部	560人 (100%)	21人 (3.8%)	474人 (84.6%)	65人 (11.6%)
総合グローバル学部	233人 (100%)	18人 (7.7%)	189人 (81.1%)	26人 (11.2%)
国際教養学部	182人 (100%)	3人 (1.6%)	112人 (61.5%)	67人 (36.8%)
理工学部	396人 (100%)	170人 (42.9%)	199人 (50.3%)	27人 (6.8%)
合計	2956人 (100%)	344人 (11.6%)	2241人 (75.8%)	371人 (12.6%)

(主な進学先・就職先) (任意記載事項)
楽天グループ(株)、日本アイ・ビー・エム(株)、(株)NTTデータ、(株)日立製作所、(株)三菱UFJ銀行、PwCコンサルティング(合同) / PwCアドバイザリー(合同)、アクセンチュア(株)、日本電気(株)、東京海上日動火災保険(株)、(株)三井住友銀行、KDDI(株)、パーソルプロセス&テクノロジー(株)、(株)みずほフィナンシャルグループ、(株)野村総合研究所、三井住友信託銀行(株)、横浜市(公務員)

(備考)
根拠資料 『2021年度卒業・修了者進路状況報告書』
Webサイト: <https://www.sophia.ac.jp/jpn/studentlife/career/tokei.html>

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

<p>(概要) 当該年度に開講されている各授業科目について、授業形態（講義、演習、実験、実習の別）、講義概要、到達目標、授業計画、授業時間外（予習・復習等）の学修、評価基準・割合、教科書・参考書等を記載したシラバスを全学統一の書式で作成し、各学部長等が確認の上、本学学生に対しては、教学支援システム「Loyola」で、また広く一般にも本学公式ホームページ上で公開している。成績評価については、すべての授業科目に同一のものとして設けており、その基準は履修要覧で示している。</p> <p>各授業担当教員は、開講前年度の1月から2月に教学支援システム「Loyola」によりシラバスを作成することとなっており、重要項目（授業の目的や評価基準等）は必須項目とし、未入力の場合、確定できないよう系統的に制御することにより入力漏れを防止するとともに、シラバス作成依頼時には上智大学ファカルティ・ディベロップメント委員会が作成する「シラバス作成の手引き」を参考資料として配付し、その質的向上を図っている。</p> <p>また、個々の教員が作成したシラバスについては、開講前年度末に各学部長等の開講元による公表内容の確認を行い、学長への結果報告を義務づけている。</p>

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

<p>(概要) 学修成果については、担当教員がシラバスで明示した評価基準・割合に照らして計算された素点に基づき、合格は「A」から「D」の4段階評価、不合格は「F」とし、段階評価が馴染まない科目については合格を「P」、不合格を「X」という評語で表すことを学則の第55条で定め、全学統一の評価基準としている。</p> <p>さらに、成績評価の厳格化及び平準化を目的に、30名以上の受講者がいる科目については演習科目や指導科目を除き、A評価を付与する割合は20%以内を目安とし、最大で30%までとするを「成績評価のガイドライン」として2015年度に定めた。ガイドラインの実効性を担保するため、ガイドラインに則った成績評価が行われているかの事後チェックを行い、A評価が30%を上回る科目があった場合には、学部長・学科長が担当教員に対し、次年度での是正勧告を行う体制を構築している。</p> <p>また、学生の側からも成績評価について疑問がある場合には「成績評価確認願」により担当教員に対して評価の確認を願い出ることができ、これらを組み合わせることで、厳格かつ適正な成績評価を行っている。</p>																			
<table border="1"> <thead> <tr> <th>学部名</th> <th>学科名</th> <th>卒業に必要となる 単位数</th> <th>GPA制度の採用 (任意記載事項)</th> <th>履修単位の登録上限 (任意記載事項)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>神学部</td> <td>神学科</td> <td>124 単位</td> <td>有・無</td> <td>単位</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">文学部</td> <td>哲学科</td> <td>124 単位</td> <td>有・無</td> <td>単位</td> </tr> <tr> <td>史学科</td> <td>124 単位</td> <td>有・無</td> <td>単位</td> </tr> </tbody> </table>	学部名	学科名	卒業に必要となる 単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)	神学部	神学科	124 単位	有・無	単位	文学部	哲学科	124 単位	有・無	単位	史学科	124 単位	有・無	単位
学部名	学科名	卒業に必要となる 単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)															
神学部	神学科	124 単位	有・無	単位															
文学部	哲学科	124 単位	有・無	単位															
	史学科	124 単位	有・無	単位															

	国文学科	124 単位	有・無	単位
	英文学科	124 単位	有・無	単位
	ドイツ文学科	124 単位	有・無	単位
	フランス文学科	124 単位	有・無	単位
	新聞学科	124 単位	有・無	単位
総合人間科学部	教育学科	124 単位	有・無	単位
	心理学科	124 単位	有・無	単位
	社会学科	124 単位	有・無	単位
	社会福祉学科	124 単位	有・無	単位
	看護学科	128 単位	有・無	単位
法学部	法律学科	126 単位	有・無	単位
	国際関係法学科	127 単位	有・無	単位
	地球環境法学科	126 単位	有・無	単位
経済学部	経済学科	124 単位	有・無	単位
	経営学科	124 単位	有・無	単位
外国語学部	英語学科	124 単位	有・無	単位
	ドイツ語学科	124 単位	有・無	単位
	フランス語学科	124 単位	有・無	単位
	イスパニア語学科	124 単位	有・無	単位
	ロシア語学科	124 単位	有・無	単位
	ポルトガル語学科	124 単位	有・無	単位
総合グローバル学部	総合グローバル学科	124 単位	有・無	単位
国際教養学部	国際教養学科	124 単位	有・無	単位
理工学部	物質生命理工学科	124 単位	有・無	単位
	機能創造理工学科	124 単位	有・無	単位
	情報理工学科	124 単位	有・無	単位
G P A の活用状況 (任意記載事項)		公表方法 :		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法 :		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法 : 2022 年度 履修要覧 [ガイド・資料編]

https://www.sophia.ac.jp/jpn/studentlife/risyu/g_youran/index.html

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
神学部・法学部・ 経済学部・外国語 学部・総合グロー バル学部		780,000 円	200,000 円	290,000 円	【その他内訳】 在籍料(休学中含む) 教育充実費
文学部	新聞学科	820,000 円	200,000 円	290,000 円	【その他内訳】 在籍料(休学中含む) 教育充実費
	新聞学科以外	780,000 円	200,000 円	290,000 円	【その他内訳】 在籍料(休学中含む) 教育充実費
総合人間科学部	心理学科	857,000 円	200,000 円	290,000 円	【その他内訳】 在籍料(休学中含む) 教育充実費
	看護学科	1,162,000 円	200,000 円	452,000 円	【その他内訳】 在籍料(休学中含む) 教育充実費 実験実習費
	それ以外	780,000 円	200,000 円	290,000 円	【その他内訳】 在籍料(休学中含む) 教育充実費
理工学部		1,115,000 円	200,000 円	497,000 円	【その他内訳】 在籍料(休学中含む) 教育充実費 実験実習費
国際教養学部 SPSF		998,000 円	200,000 円	290,000 円	【その他内訳】 在籍料(休学中含む) 教育充実費

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
<p>(概要) アカデミック・アドバイザーやクラス主任を配置し、学生が主体的な学びを円滑に進めるための相談体制を整備している。また、LLC の設置など、学生の授業以外での自律的な学修を支援する環境を整備している。</p> <p>年度末には、GPA0.5 未満の成績不振学生に対して所属学科が個別に連絡をとり、個々の学生に応じた指導、対応を行っている。</p>
b. 進路選択に係る支援に関する取組
<p>(概要) キャリアセンターでは、大学に寄せられる求人やOB・OG 情報などの情報提供はもちろん、キャリアアドバイザーによる個別相談、就職活動やキャリアに関する様々なガイダンスやセミナー等を企画・開催している。個別相談の利用者は年間のべ5000人、ガイダンス・セミナーの開催回数は年間約300回である。また、正課授業として「キャリアディベロップメント」「キャリアデザイン演習」などの科目を計10科目(令和3年度実績)開講し、低学年からキャリアに関する意識を持ち、社会人基礎力を身につけることができるようになってきている。</p> <p>また外国人留学生や海外留学帰国生に対する支援も強化しており、日本での就職活動の特徴を理解し、活動をスムーズに進めるための各種セミナーや、語学力やグローバル対応力を生かした就職を促進するための英語によるキャリアフェア等も開催している。</p> <p>近年、大学生の就職活動は早期化・多様化しているが、学生が主体的に自らの進路を考え、行動するための機会と情報を提供し、豊かな人間形成と持続的なキャリア形成を支援することを基本方針とし、日々取り組んでいる。</p>

c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

(概要) ウェルネスセンターは健康支援、カウンセリングサービス、障がい学生支援の部門があり、各部門が連動しながらそれぞれが学生の心身の健康に対する支援を行っている。また秋学期からは別途、学内相談のコンシェルジュ機能を持った窓口も設置予定。

<健康支援>

医師（内科・精神科）や看護師による健康相談、応急措置、病院紹介を平日は毎日行っている。また、センター内には計測器（身長体重・体脂肪、血圧、視力など）が設置されており自由に測定が行えるようになっている。

新入生に対しては、入学時に全員対象で精神保健アンケートを行っており、面談が必要と思われる学生には精神科医の面談を実施して、メンタル不調の早期発見と対応に繋げている。さらに電話による健康相談ダイヤル（24時間、年中無休：外部委託）を開設し、1人暮らしの学生が夜中に具合が悪くなった際などにも活用されている。

<カウンセリングサービス>

学生のような悩みや相談をする場として設置している。常勤と非常勤の計9名のカウンセラーが個別相談のほか、自己理解やストレスマネジメント等のためのグループワークなども企画・実施している。

日本語以外に、英語、中国語によるカウンセリングを実施しており、留学生にも対応している。

<障がい学生支援>

障がいにより修学に著しい制限が生じている学生に対しては、授業や実習、試験や大学行事等について大学が必要性を認め、かつ提供できる範囲で支援を行っている。

申請があった学生については、担当の職員が面談を行い、必要に応じて学内関係部署との面談や協議を行い、支援を実施している。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：上智大学の教育研究活動等の情報公表

https://www.sophia.ac.jp/jpn/aboutsophia/sophia_disclosure/

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード	F113310103064
学校名	上智大学
設置者名	学校法人上智学院

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		489人	475人	525人
内 訳	第Ⅰ区分	293人	288人	
	第Ⅱ区分	117人	126人	
	第Ⅲ区分	79人	61人	
家計急変による支援対象者（年間）				21人
合計（年間）				546人
(備考)				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	-		
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の5割以下)	-		
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	0人		
「警告」の区分に連続して該当	23人		
計	27人		
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であつて、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡つて認定の効力を失った者の数

右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期		後半期

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	-
年間計	-
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の6割以下)	—		
GPA等が下位4分の1	71人		
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況	0人		
計	71人		
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

21	2	前年度に授業(2) 適格認定 右以外の大学等・年間	計	2	7
20	2	前年度に授業(2) 適格認定 右以外の大学等・年間	「警告」の区分に連続して該当	2	3
19	2	前年度に授業(2) 適格認定 右以外の大学等・年間	出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低	0	0
18	2	前年度に授業(2) 適格認定 右以外の大学等・年間	(単位制によらない専門学校にあつては、履	-	-
17	2	前年度に授業(2) 適格認定 右以外の大学等・年間	修業年限で卒業又は修了できないことが確定	-	-
16	2	前年度に授業(1) 偽りその	年間	0	0
15	1	前年度の授業	(備考)	0	0
14	1	前年度の授業	合計(年間)	5	4
13	1	前年度の授業	年間	2	1
12	1	前年度の授業	家計急変による 支援対象者(年間)	5	2
11	1	前年度の授業	による者を除く)	2	5
10	1	前年度の授業	第III区分	6	1
9	1	前年度の授業	第II区分	1	2
8	1	前年度の授業	第I区分	2	8
7	1	前年度の授業	支援対象者(家計急変 による者を除く)	4	7
6	1	前年度の授業	による者を除く)	7	9
5	1	前年度の授業	第III区分	1	7
4	1	前年度の授業	第II区分	2	9
3			第I区分	4	8
2			支援対象者(家計急変 による者を除く)	8	9
1			設置者名		
			学校名		
			学校コード		
				F	1
				1	1
				3	3
				1	1
				0	1
				0	3
				3	0
				0	6
				6	4
				4	

学校法人上智学院

上智大学

42	3	前年度に授業「停学」(3月未満)	年間計	0
41	3	前年度に授業「停学」(3月未満)	訓告	0
40	3	前年度に授業「停学」(3月未満)	3月未満の停学	0
39	2	前年度に授業「(3)退学又は」	(備考)	0
38	2	前年度に授業「(3)退学又は」	年間計	-
37	2	前年度に授業「(3)退学又は」	3月以上の停学	-
36	2	前年度に授業「(3)退学又は」	退学	0
35	2	前年度に授業「(2)適格認定」上記の(2)のうち、学業修業年限2年以下・後半期		0
34	2	前年度に授業「(2)適格認定」上記の(2)のうち、学業修業年限2年以下・前半期		0
33	2	前年度に授業「(2)適格認定」上記の(2)のうち、学業右以外の大学等・年間		0
32	2	前年度に授業「(2)適格認定」	(備考)	0
31	2	前年度に授業「(2)適格認定」修業年限2年以下・後半期計		0
30	2	前年度に授業「(2)適格認定」修業年限2年以下・後半期「警告」の区分に連続して該当		0
29	2	前年度に授業「(2)適格認定」修業年限2年以下・後半期出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低		0
28	2	前年度に授業「(2)適格認定」修業年限2年以下・後半期 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位時間数が標準時間数の5割以		0
27	2	前年度に授業「(2)適格認定」修業年限2年以下・後半期修業年限で卒業又は修了できないことが確定		0
26	2	前年度に授業「(2)適格認定」修業年限2年以下・前半期計		0
25	2	前年度に授業「(2)適格認定」修業年限2年以下・前半期「警告」の区分に連続して該当		0
24	2	前年度に授業「(2)適格認定」修業年限2年以下・前半期出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低		0
23	2	前年度に授業「(2)適格認定」修業年限2年以下・前半期 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位時間数が標準時間数の5割以		0
22	2	前年度に授業「(2)適格認定」修業年限2年以下・前半期修業年限で卒業又は修了できないことが確定		0

43	3	前年度に授業(停学(3月未満)	(備考)	0
44	4	適格認定にお	右以外の大学等・年間 修業年限2年以下・前 半期 計 科目の単位時間数が標準時間数の6割以	-
45	4	適格認定にお	右以外の大学等・年間 GPA等が下位4分の1	7 1
46	4	適格認定にお	右以外の大学等・年間 出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況	0
47	4	適格認定にお	右以外の大学等・年間 計	7 1
48	4	適格認定にお	修業年限2年以下・前 半期 科目の単位時間数が標準時間数の6割以	0
49	4	適格認定にお	修業年限2年以下・前 半期 GPA等が下位4分の1	0
50	4	適格認定にお	修業年限2年以下・前 半期 出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況	0
51	4	適格認定にお	修業年限2年以下・前 半期 計	0
52	4	適格認定にお	修業年限2年以下・後 半期 科目の単位時間数が標準時間数の6割以	0
53	4	適格認定にお	修業年限2年以下・後 半期 GPA等が下位4分の1	0
54	4	適格認定にお	修業年限2年以下・後 半期 出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況	0
55	4	適格認定にお	修業年限2年以下・後 半期 計	0
56	4	適格認定にお	修業年限2年以下・後 半期 (備考)	0